

令和6年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 真庭市結果について

I はじめに

－語り合いで「共」に「育」ち合う仕組みを創る－

真庭市の小中学校では、「確かな学力と豊かな心を備え、夢をもって自ら学ぶ子どもの育成」を目指して、郷育を核としたキャリア教育、個性や能力が輝くインクルーシブ教育を軸とした、教育活動を推進しています。

毎年実施される全国及び岡山県学力・学習状況調査については、その結果を基に、検証・改善・実践のサイクルを確立し、各校における取組の進捗状況を検証する1つの指標として活用しています。

真庭市が目指す子どもの姿の実現を目指して、学校、家庭、地域が一体となって、子どもを確かに育む取組を推進するために、本調査結果を公表します。

II 調査の概要

全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持・向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・市内小学校第6学年児童（20校 357名）
- ・市内中学校第3学年生徒（6校 342名）

3 調査の内容

ア 教科に関する調査

（ア）小学校：国語・算数 中学校：国語・数学

（イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下の通り

- 1.身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 2.知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

（「児童生徒に対する調査」 「学校に対する調査」）

4 調査実施日

- ・令和6年4月18日（木）

Ⅲ 進捗状況	ー 真庭市が目指す学校教育の姿と現状を結ぶー 【全国（小6/中3）県（小3・4・5/中1・2）調査より】
郷育を核とした キャリア教育を 通して「 未来を切り拓く子 」を育む	・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という児童生徒の割合は、県平均を小中学校ともに上回っている。「人の役に立つ人間になりたいと思う」という問いでも小中学校ともに肯定的な回答の割合が全国を上回っている。 ◆総合的な学習の時間を中心としたふるさと学習を通して、児童生徒の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、「地域や社会」に対する貢献意欲を高めることができる。 ◆課題を自ら設定し、その解決に向けて取り組むといった探究的な学習を繰り返しながら、自らの将来について関心を高めていきたい。
個性や能力が輝く インクルーシブ教育により 「 共生社会の担い手 」を育む	・「人が困っているときは、進んで助ける」という質問では、小中学校とも肯定的な回答の割合が全国を上回っている。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問でも、小中学校とも肯定的な回答の割合が全国値を上回っている。 ◆学校行事や学級活動を通して、互いの人格と個性を尊重し支え合い、ちがいを認め合いながら成長していくための豊かな心が育まれている。
確かな学力を育む 学習基盤	・「国語・算数/数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問では、「よくわかる」の回答率が高くなっている。 ・「小学校5年生・中学校1・2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」でも小中学校とも肯定的な回答の割合が全国値を上回っている。 ・I C T機器の使用頻度は、小中学校ともに肯定的な回答の割合が全国値を上回っており、特に中学校では「ほぼ毎日」と答えた生徒が多かった。 ・家庭学習時間については、特に中学校で県、全国値を下回っている。 ◆児童生徒に寄り添ったわかりやすい授業づくりは進んでいるが、児童生徒が主体的に自己調整し、学習に取り組むような授業、家庭学習を目指した取組を進めていく必要がある。
確かな学力	【全国調査（小6/中3）より】 ・小学校は正答率が全国値をやや下回った。中学校についても正答率が全国値を下回ったが、課題だった数学にやや改善が見られた。 【県調査（小3・4・5/中1・2）より】 ・小中学校ともに、正答率が全国値を下回っている。 ・中学校1年生英語については、正答率が全国値をやや上回った。 ◆全国・県調査から、特に算数・数学については引き続き、学習内容の確実な定着が課題である。また、全体的に問題を読み取る力にも課題がある。

Ⅳ 平均正答率の状況

全国調査（小6／中3）

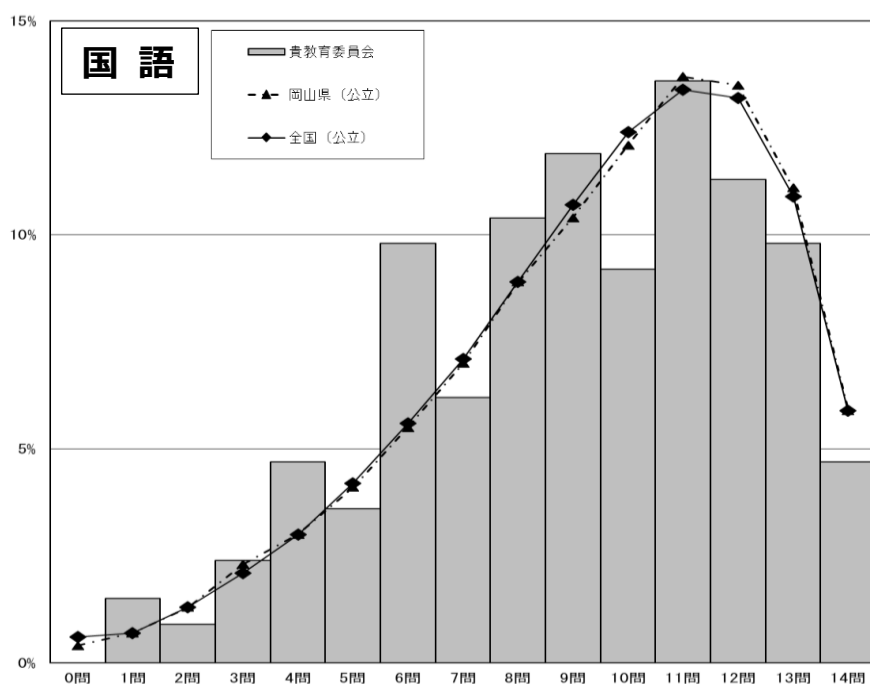
小学校平均正答率の状況

【参考：令和5年度の結果】

項目		国語	算数
令和6年度 平均正答率	真庭市	65	60
	岡山県	68	62
	全国	67.7	63.4
	全国との差	-2.7	-3.4

項目		国語	算数
令和5年度 平均正答率	真庭市	69	62
	岡山県	68	61
	全国	67.2	62.5
	全国との差	1.8	-0.5

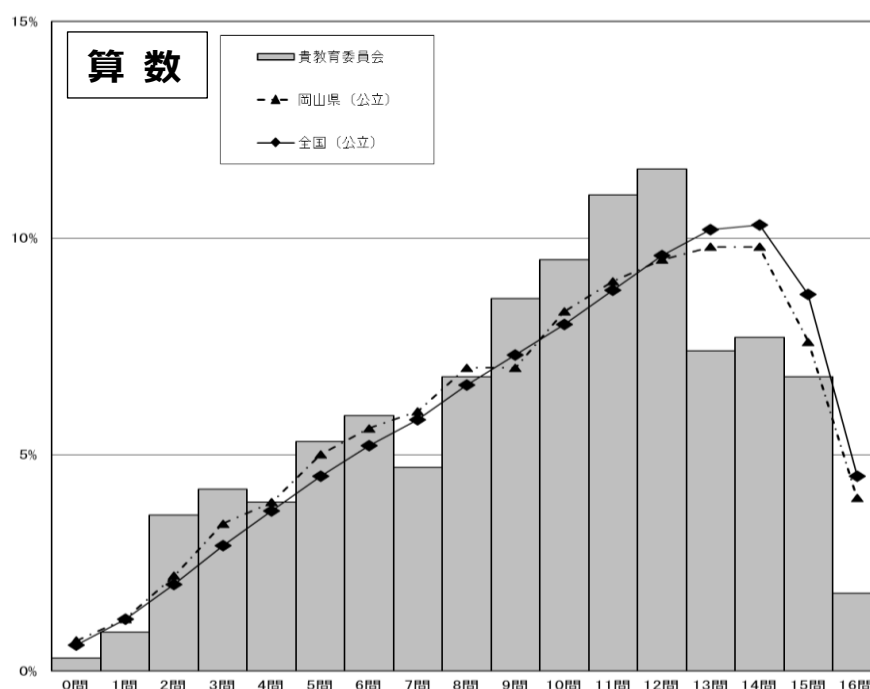
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



■ 正答数の少ない児童の割合（特に6問以下）が全国や県よりやや高い傾向にあった。

□ 物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題の正答率は全国よりも高かった。

■ メールやメモの内容を正しく読み取る問題では、正答率が低かった。



■ 正答数の多い生徒の割合（13問以上）が全国や県より低い傾向にあった。

□ 除法についての問題はいずれも正答率が高かった。

■ 図形の領域の問題に課題が見られた。また、道のり・速さ・時間に係る問題の正答率も低かった。

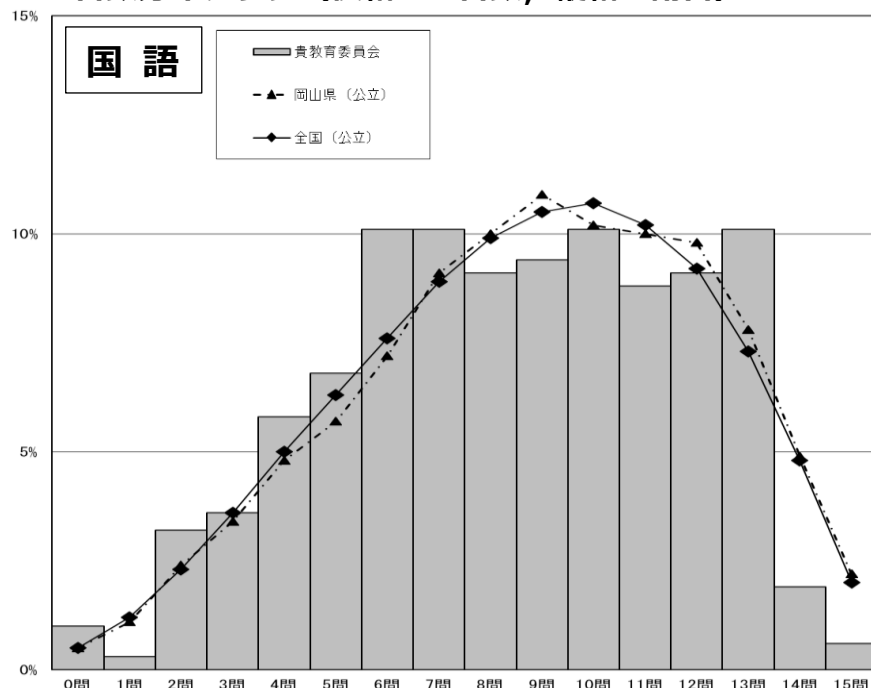
中学校平均正答率の状況

項目		国語	数学
令和6年度 平均正答率	真庭市	56	48
	岡山県	59	53
	全国	58.1	52.5
	全国との差	-2.1	-4.5

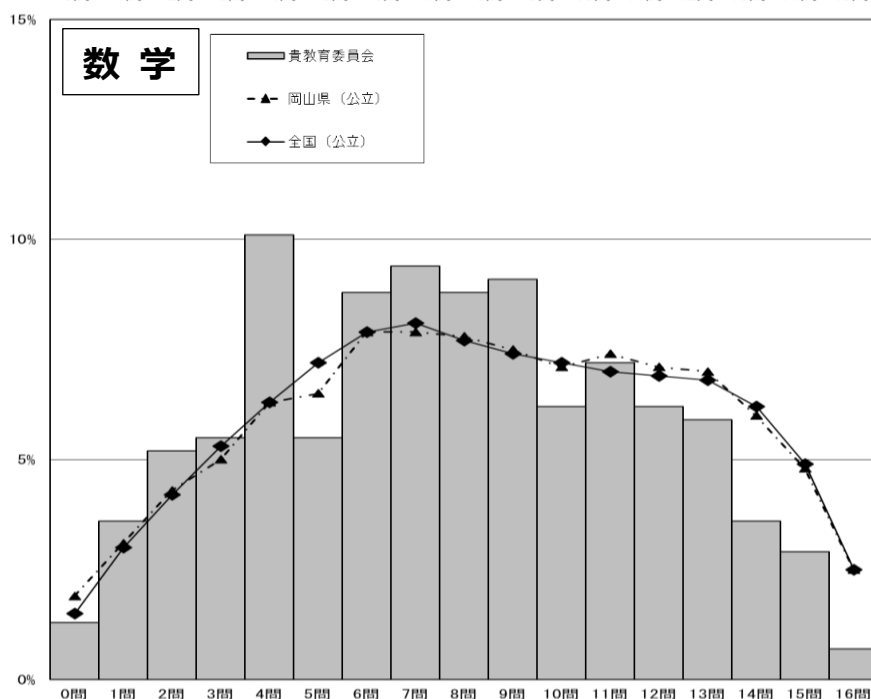
【参考：令和5年度の結果】

項目		国語	数学
令和5年度 平均正答率	真庭市	68	44
	岡山県	70	51
	全国	69.8	51
	全国との差	-1.8	-7.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



- 正答数の多い生徒の割合（14問以上）が全国や県より低い傾向にあった。
- 自分の考えを書く問題は県や全国よりも正答率がやや高かった。
- 読み手の立場に立って発言の意図を読みとったり、要約したりする問題に課題が見られた。
- 短歌の表現技法を答える問題も正答率が低かった。



- 正答数の少ない児童の割合（特に6問以下）が全国や県よりやや高い傾向にあった。
- 文字式や等式変形などの基礎的な問題の正答率が県や全国よりも低かった。
- 全体を通して、無回答率がやや高かった。
- 箱ひげ図を読み取って答える問題は、正答率が全国よりもやや高かった。

V調査の概要

岡山県学力・学習状況調査

1調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習の状況を全国比較及び経年比較することにより、教科指導や教育施策の改善を図る。

2調査の対象と内容

	小学校（20校）			中学校（6校）	
	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
市内対象者数	327人	357人	317人	293人	344人
県内受験者数	8,838人	9,197人	9,113人	8,964人	8,671人
全国受験者数	約8万人	約10万人	約11万人	約9万人	約10万人
実施教科等	国語、算数	国語、算数	国語、算数 質問紙	国語、数学 英語、質問紙	国語、数学 英語、質問紙

3調査実施日

・令和6年4月18日（火）

VI 平均正答率の状況		県調査（小3・4・5／中1・2）										
学年	小学校3年生		小学校4年生		小学校5年生		中学校1年生			中学校2年生		
項目	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	英語	国語	数学	英語
真庭市	70.3	76.1	70.5	69.9	63.9	62.1	60.4	64.0	77.7	63.4	51.6	48.4
岡山県	71.8	76.8	71.5	71.5	63.8	62.7	61.0	63.6	76.6	64.9	55.4	51.1
全国	72.8	78.0	73.4	72.1	64.9	64.0	61.3	64.4	76.8	65.1	54.7	52.7

平均正答率の比較【基礎・活用】

小学校の結果

第3学年	国語			算数			国語	正答率	-2.6
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-2.1
真庭市	70.3	78.2	54.3	76.1	79.7	63.0		活用	-3.6
岡山県	71.8	79.4	56.5	76.8	80.4	64.1	算数	正答率	-1.9
全国	72.8	80.3	57.9	78.0	81.7	64.7		基礎	-2.0
全国との差	-2.6	-2.1	-3.6	-1.9	-2.0	-1.7		活用	-1.7
第4学年	国語			算数			国語	正答率	-3.0
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-2.4
真庭市	70.5	76.1	58.6	69.9	73.2	61.3		活用	-4.2
岡山県	71.5	76.6	60.9	71.5	74.7	63.5	算数	正答率	-2.2
全国	73.4	78.4	62.8	72.1	75.2	64.3		基礎	-1.9
全国との差	-3.0	-2.4	-4.2	-2.2	-1.9	-3.1		活用	-3.1
第5学年	国語			算数			国語	正答率	-1.0
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-0.1
真庭市	63.9	64.5	62.5	62.1	66.6	53.5		活用	-3.0
岡山県	63.8	64.2	62.9	62.7	67.2	54.1	算数	正答率	-1.9
全国	64.9	64.7	65.6	64.0	68.3	55.8		基礎	-1.7
全国との差	-1.0	-0.1	-3.0	-1.9	-1.7	-2.3		活用	-2.3

中学校の結果

第1学年	国語			数学		
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用
真庭市	60.4	63.5	54.6	64.0	67.4	50.4
岡山県	61.0	64.6	54.3	63.6	67.0	49.8
全国	61.3	64.9	54.6	64.4	67.5	52.1
全国との差	-0.9	-1.4	0.0	-0.4	-0.1	-1.7
第1学年	英語					
	正答率	基礎	活用			
真庭市	77.7	76.5	83.0			
岡山県	76.6	75.9	79.5			
全国	76.8	76.3	79.2			
全国との差	0.9	0.2	3.8			

国語	正答率	-0.9
	基礎	-1.4
	活用	0.0
数学	正答率	-0.4
	基礎	-0.1
	活用	-1.7
英語	正答率	0.9
	基礎	0.2
	活用	3.8

第2学年	国語			数学		
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用
真庭市	63.4	68.7	53.5	51.6	54.8	42.2
岡山県	64.9	70.0	55.3	55.4	59.6	42.9
全国	65.1	70.3	55.2	54.7	58.2	43.9
全国との差	-1.7	-1.6	-1.7	-3.1	-3.4	-1.7
第2学年	英語					
	正答率	基礎	活用			
真庭市	48.4	51.8	41.6			
岡山県	51.1	53.8	45.6			
全国	52.7	56.0	45.9			
全国との差	-4.3	-4.2	-4.3			

国語	正答率	-1.7
	基礎	-1.6
	活用	-1.7
数学	正答率	-3.1
	基礎	-3.4
	活用	-1.7
英語	正答率	-4.3
	基礎	-4.2
	活用	-4.3

□中学校1年生については、県、全国値に近い値となっている。特に英語の「活用」については、県、全国の前年を上回っている。

■国語は全体として、「活用」の問題について県や全国の前年より低くなっており、特に説明や自分の考えなどの「文章を書く問題」に課題がある。無解答率も高くなっている。

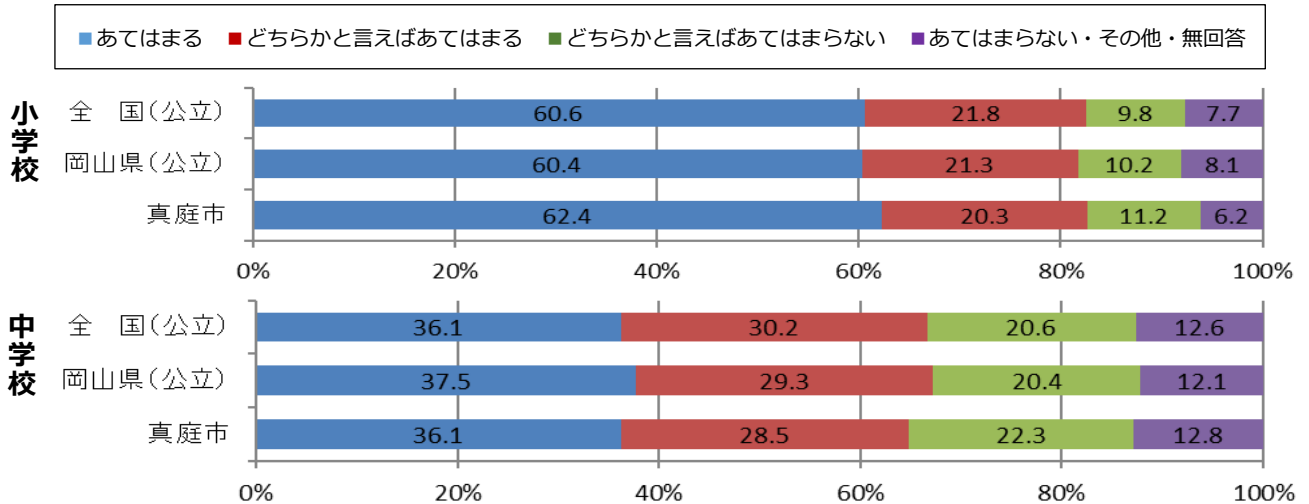
■小学校算数では、学年にもよるが、「図形」「グラフの読み取り」などの前年が低かった。中学校数学では「文字と式」「方程式」などの基礎的な部分に課題が見られた。

■英語については、1年生は特に「活用」の問題の中の「英作文」で高い回答率となったが、2年生では逆に「英作文」に課題が見られた。

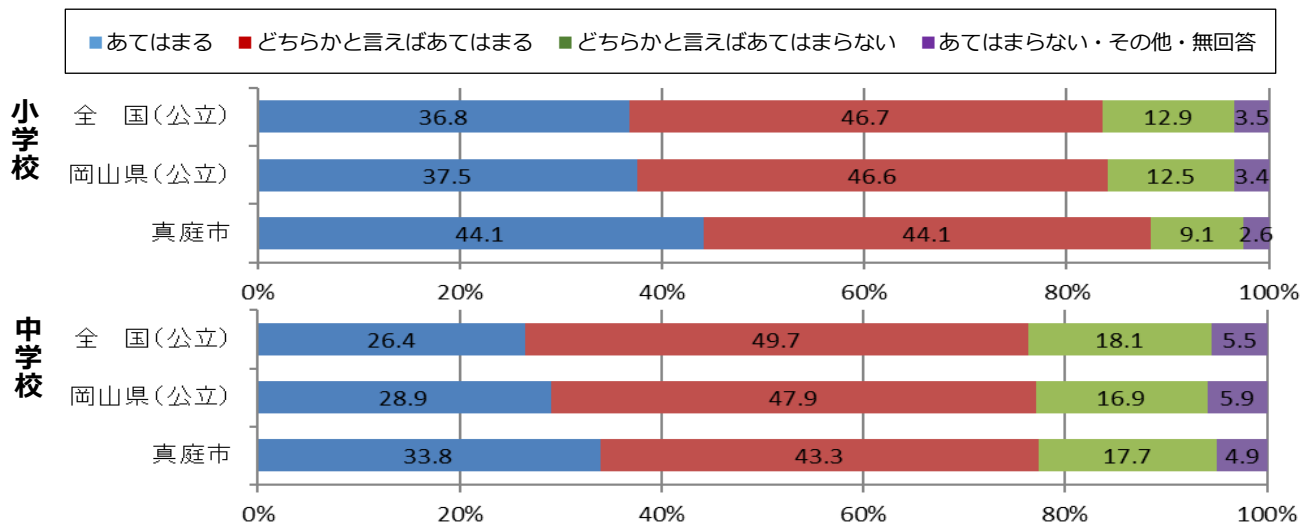
Ⅶ 質問紙調査結果概要（全国調査）

◆郷育を核としたキャリア教育を通して「未来を切り拓く子」を育む

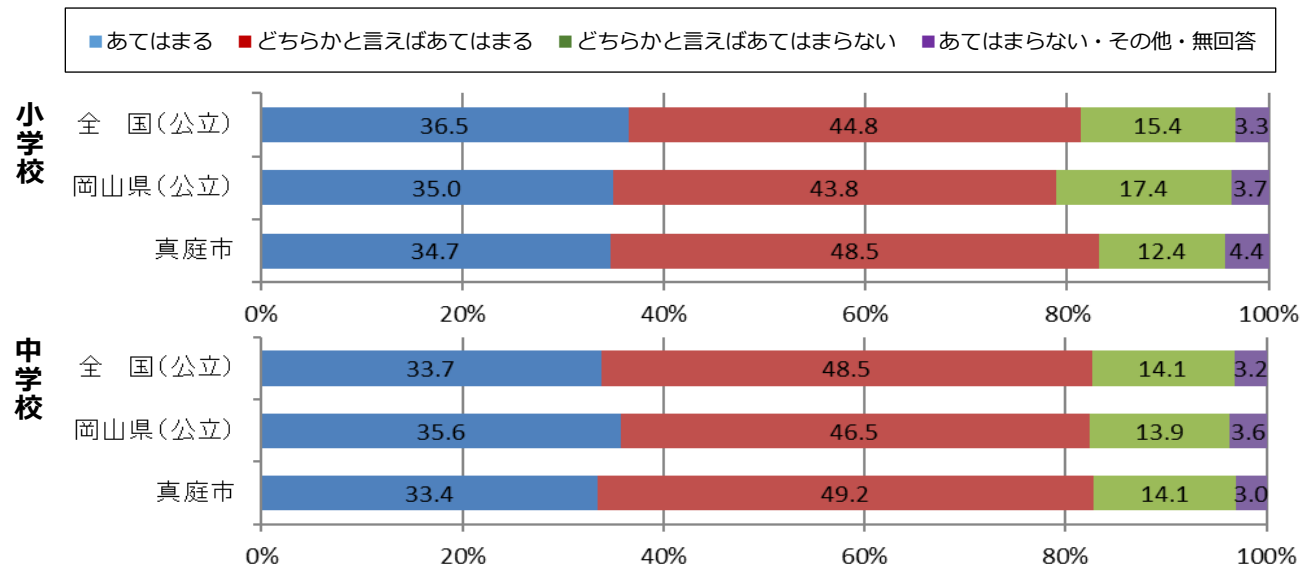
【質問項目】将来の夢や目標を持っていますか



【質問項目】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

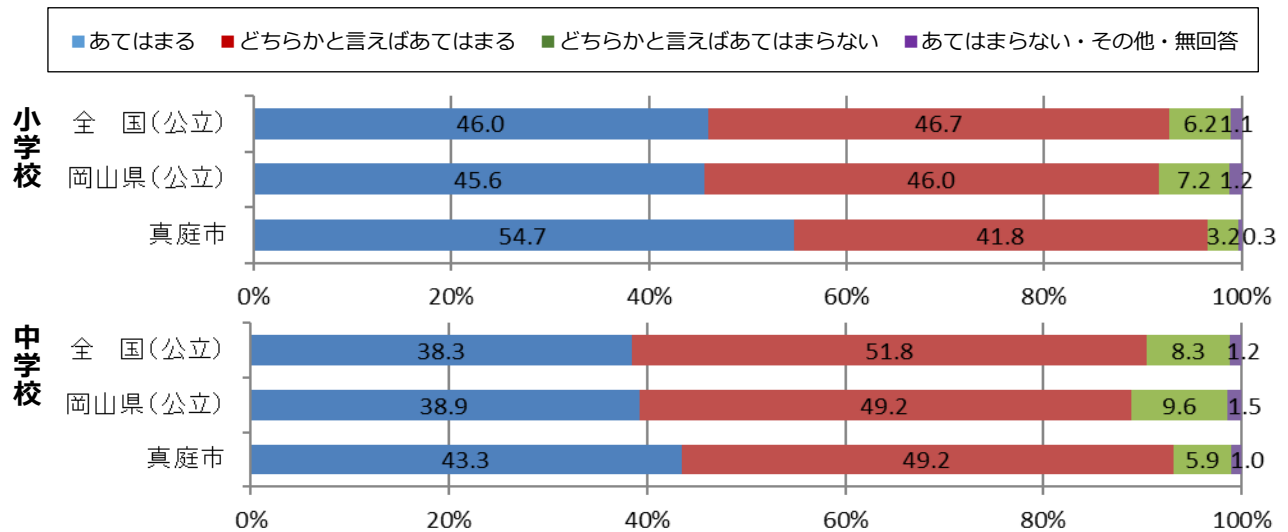


【質問項目】総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

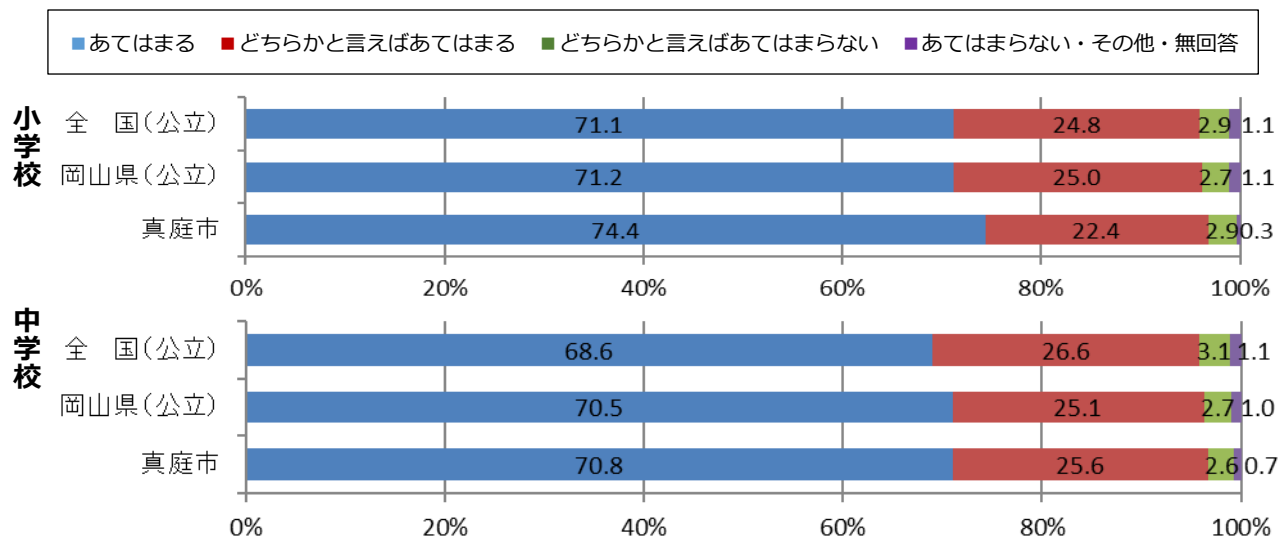


◆個性や能力が輝くインクルーシブ教育により「共生社会の担い手」を育む

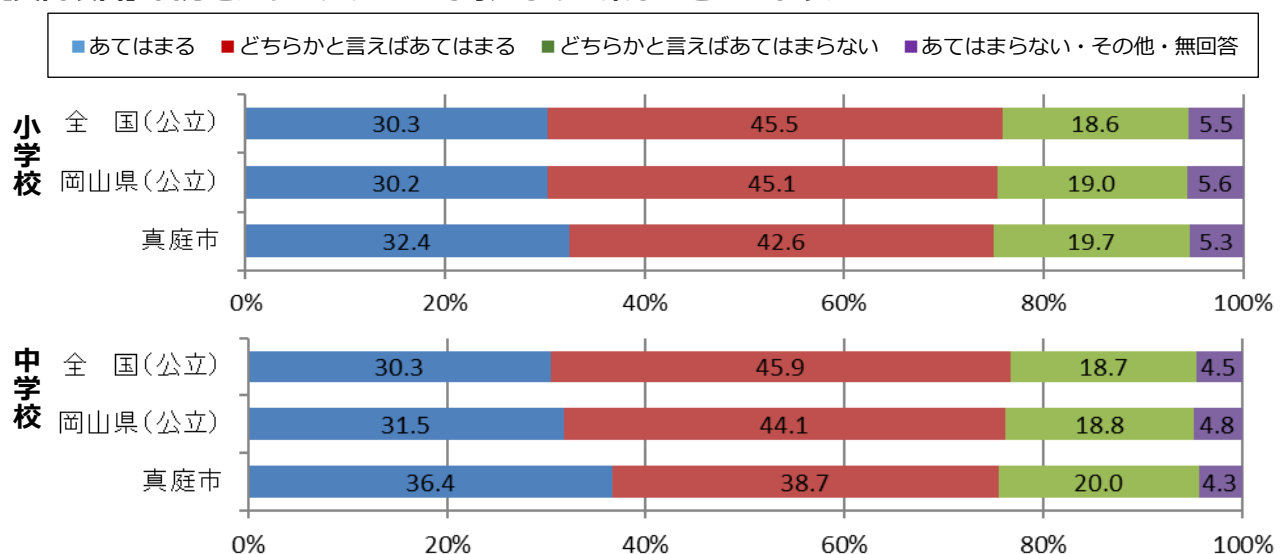
【質問項目】 人が困っているときは、進んで助けていますか



【質問項目】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

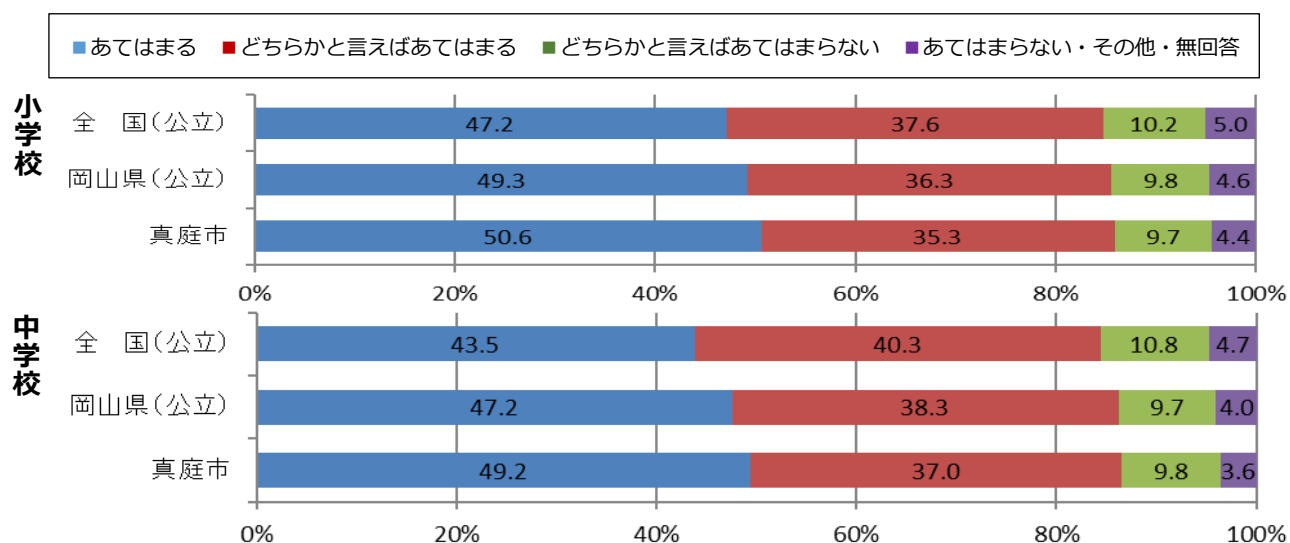


【質問項目】 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

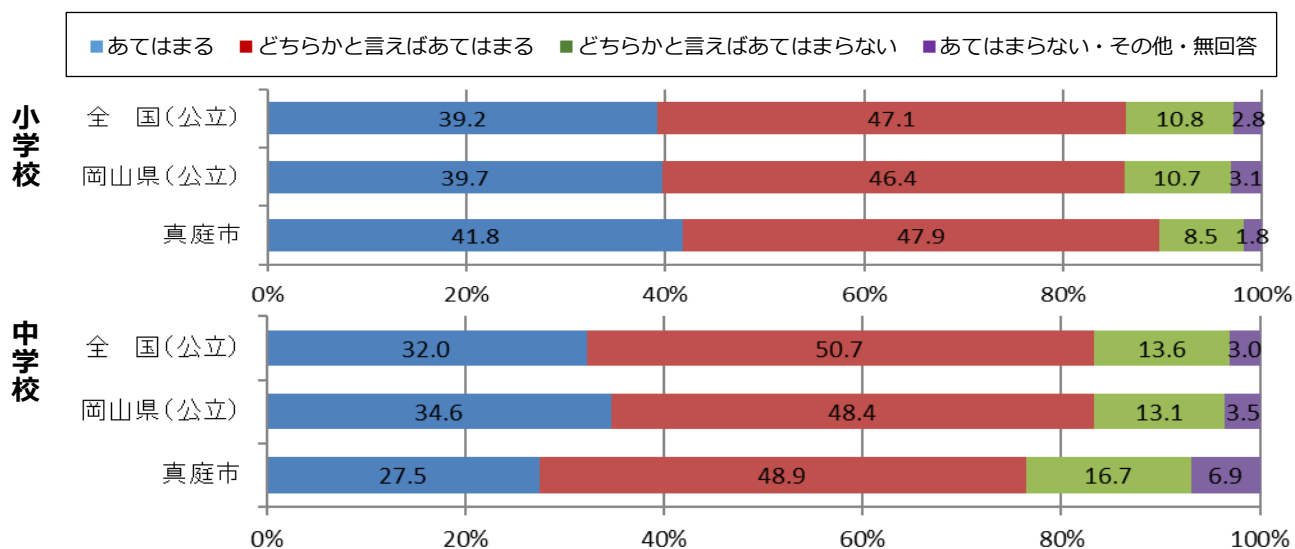


◆確かな学力を育む学習基盤

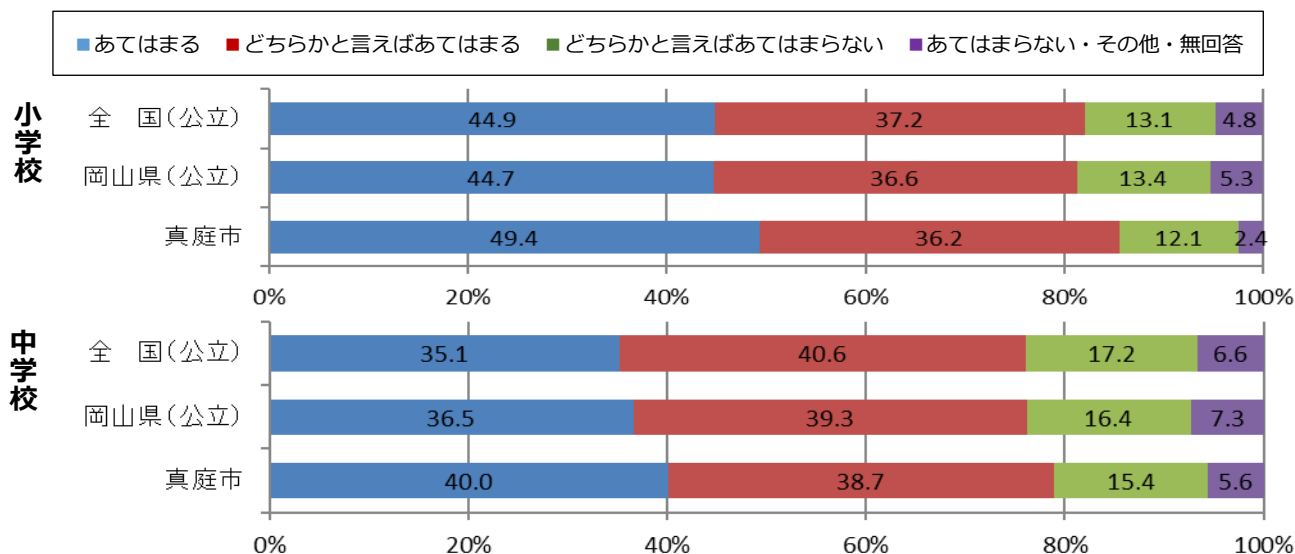
【質問項目】 学校に行くのは楽しいと思いますか



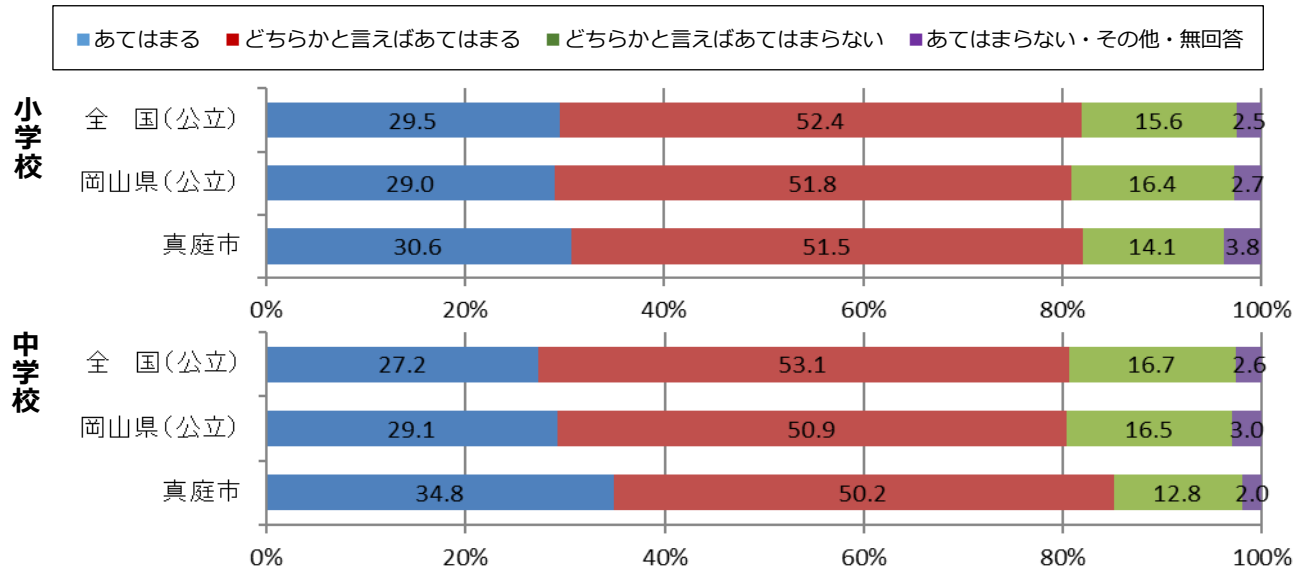
【質問項目】 国語の授業の内容はよく分かりますか



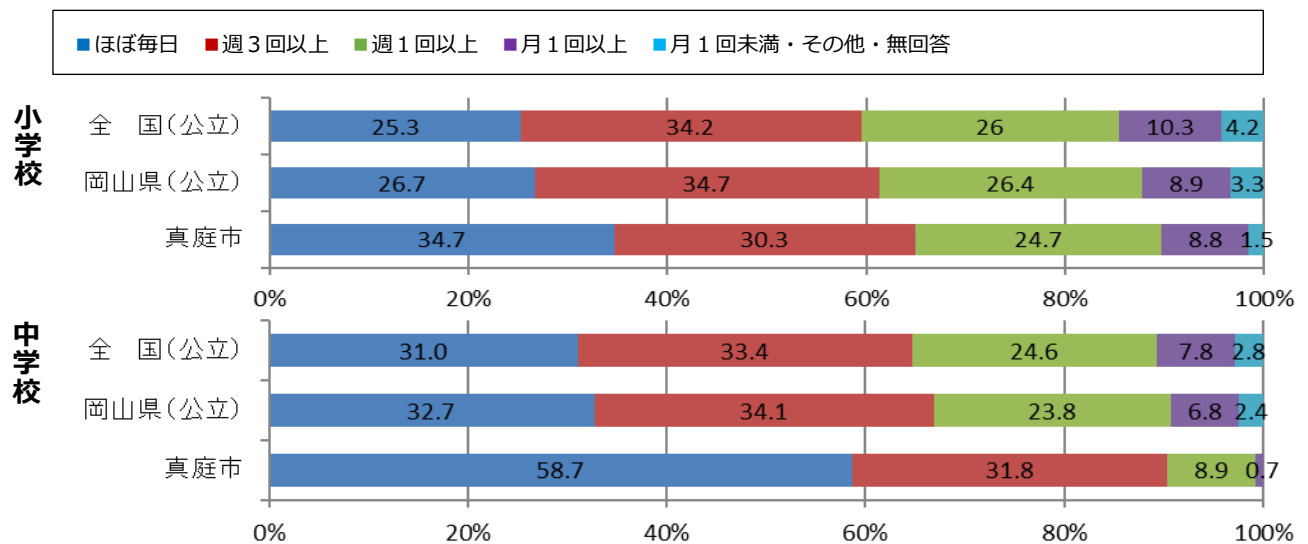
【質問項目】 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



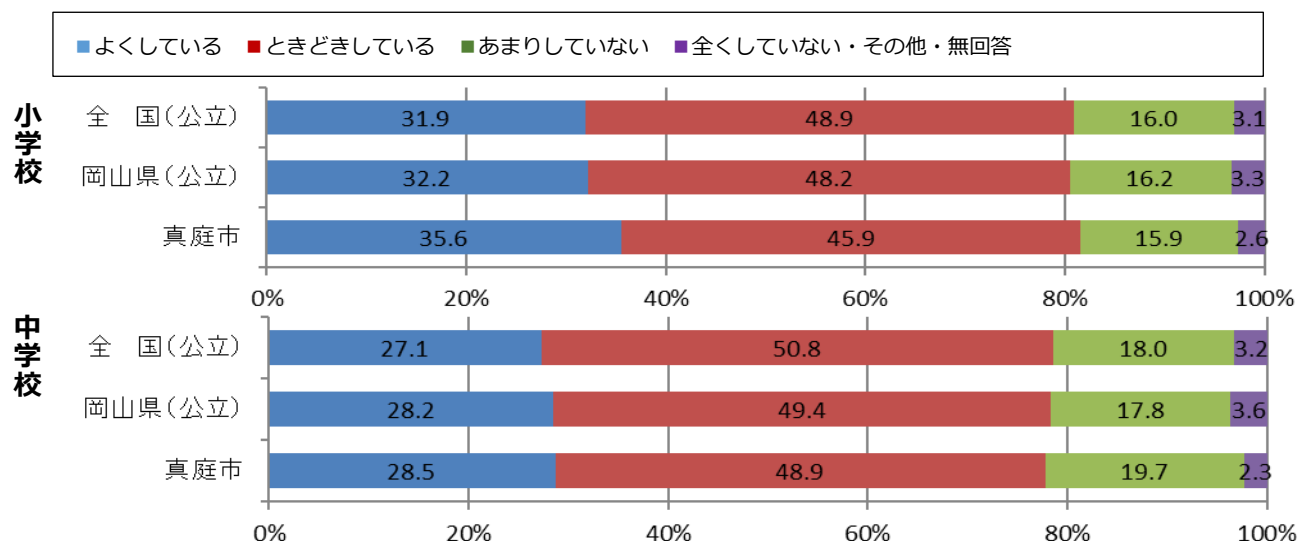
【質問項目】 小学校5年生・中学校1・2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか（主体性）



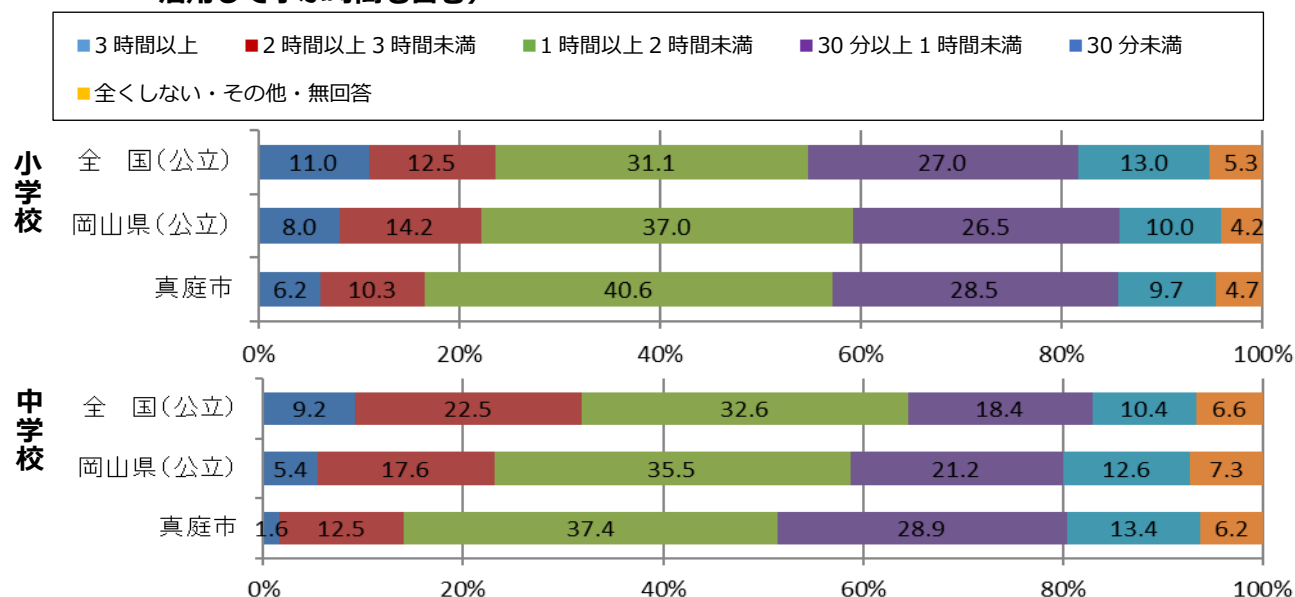
【質問項目】 5年生・中学校1・2年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



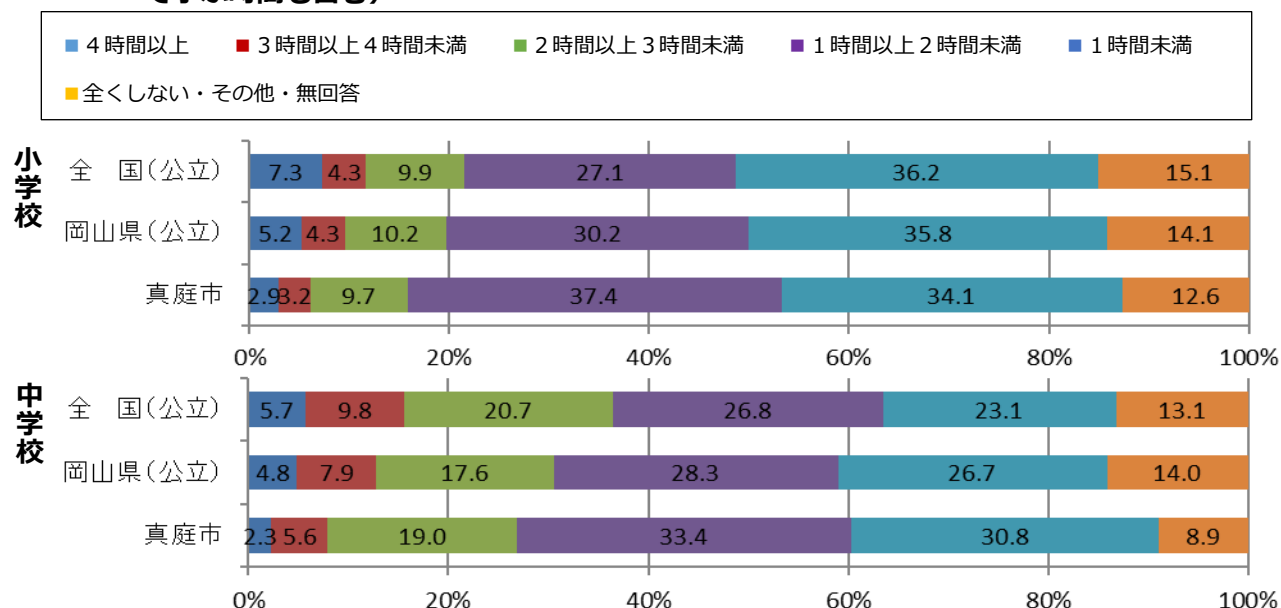
【質問項目】 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。（自己調整力）



【質問項目】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



【質問項目】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

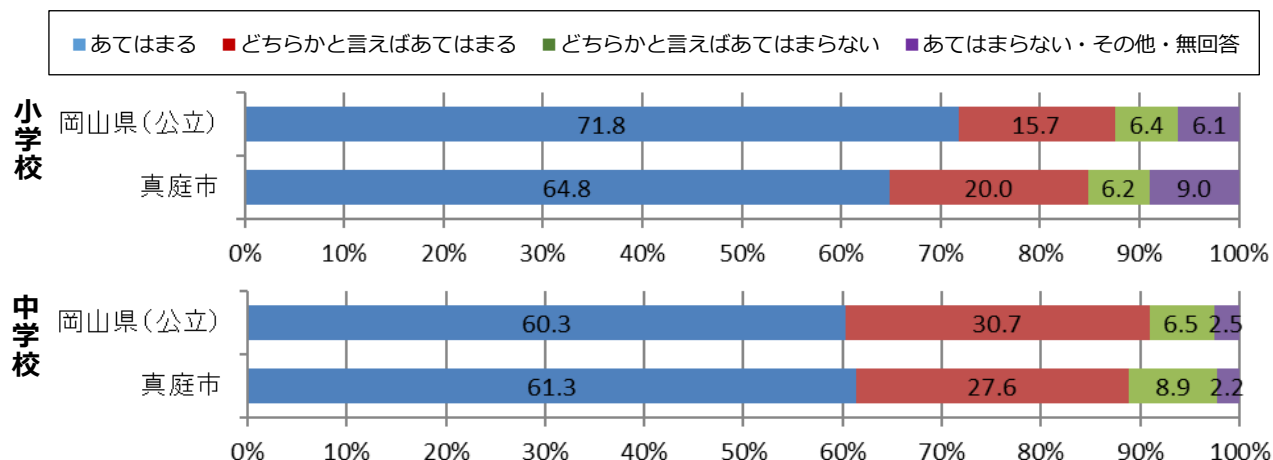


VIII 質問紙調査結果概要（県調査）

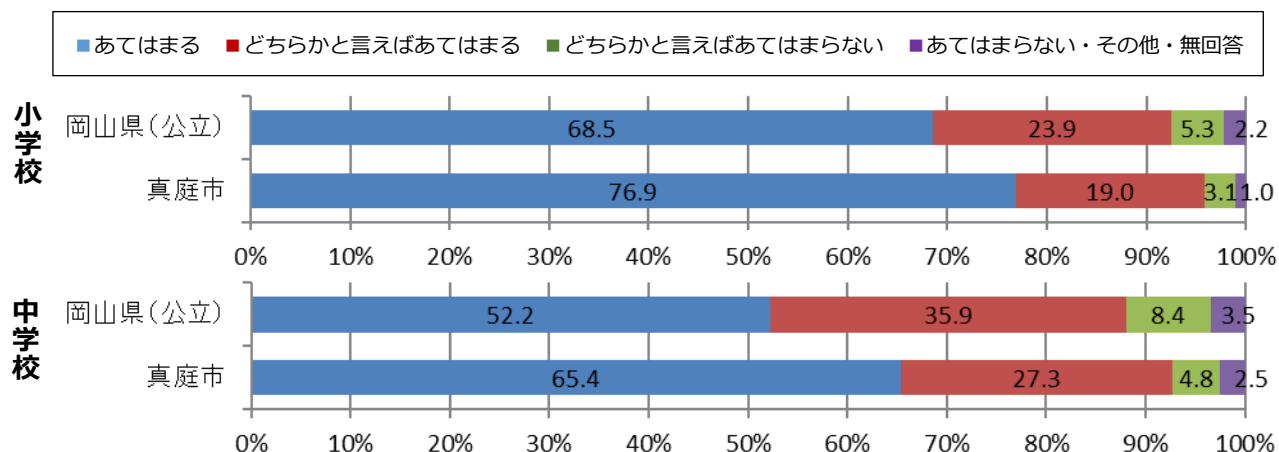
◆郷育を核としたキャリア教育を通して、「未来を切り拓く子」を育む

※以下の質問調査は、小学校5年生、中学校2年生の回答の状況

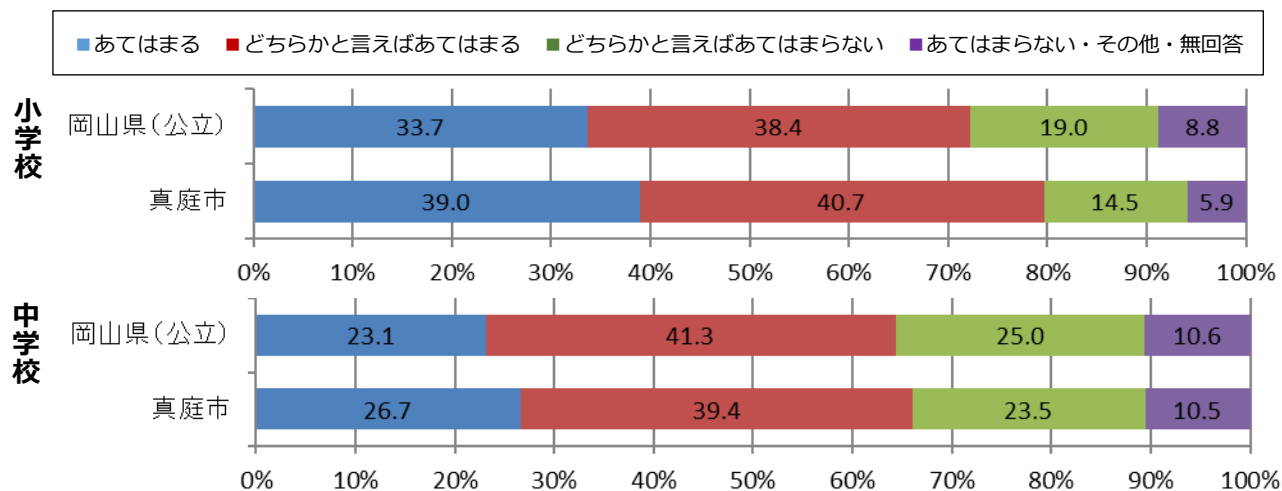
【質問項目】 将来の夢や目標を持っている



【質問項目】 自分が住んでいる地域が好きである

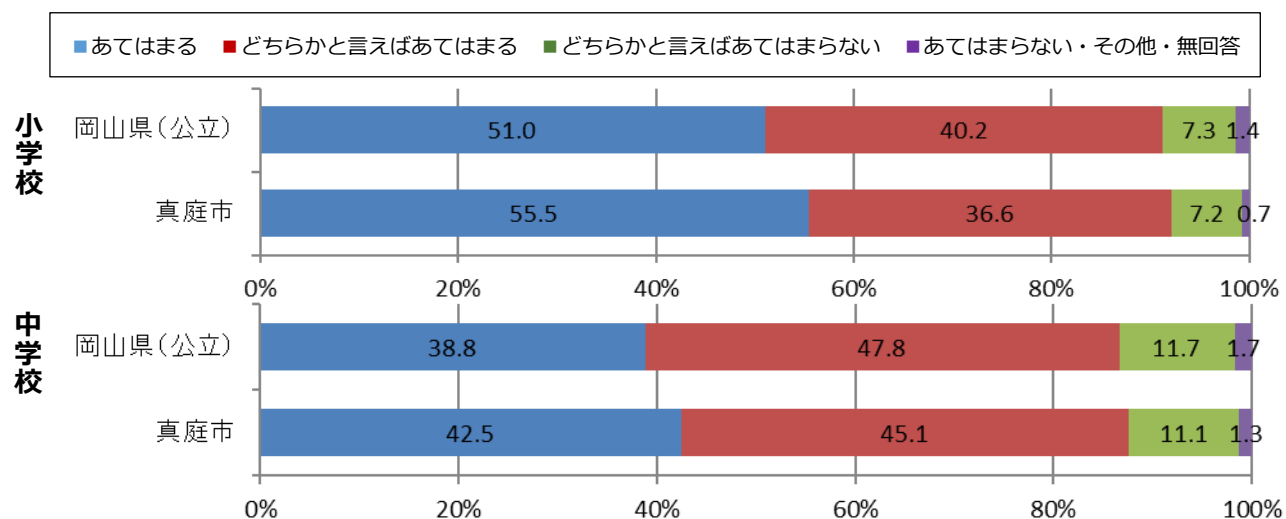


【質問項目】 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

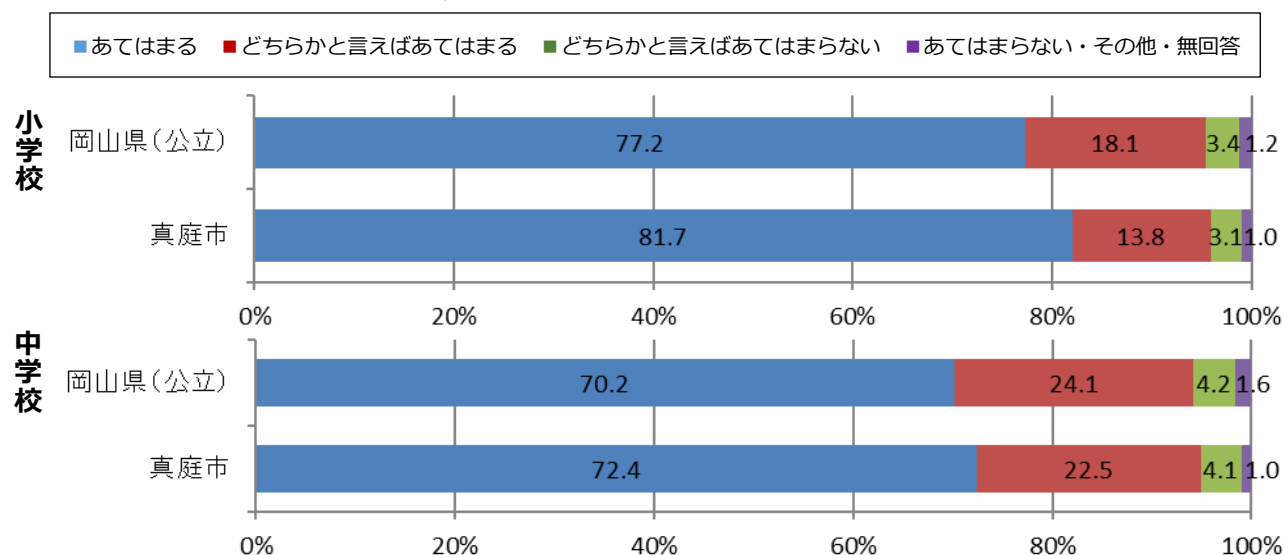


◆個性や能力が輝くインクルーシブ教育により「共生社会の担い手」を育む

【質問項目】 人が困っているときは、進んで助けている

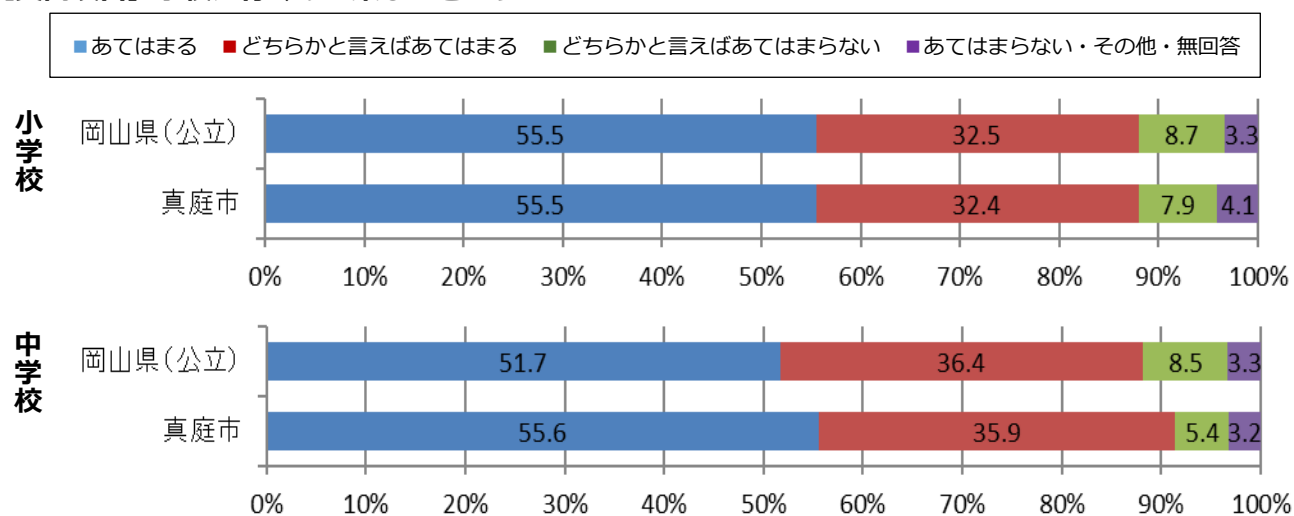


【質問項目】 人の役に立つ人間になりたいと思う

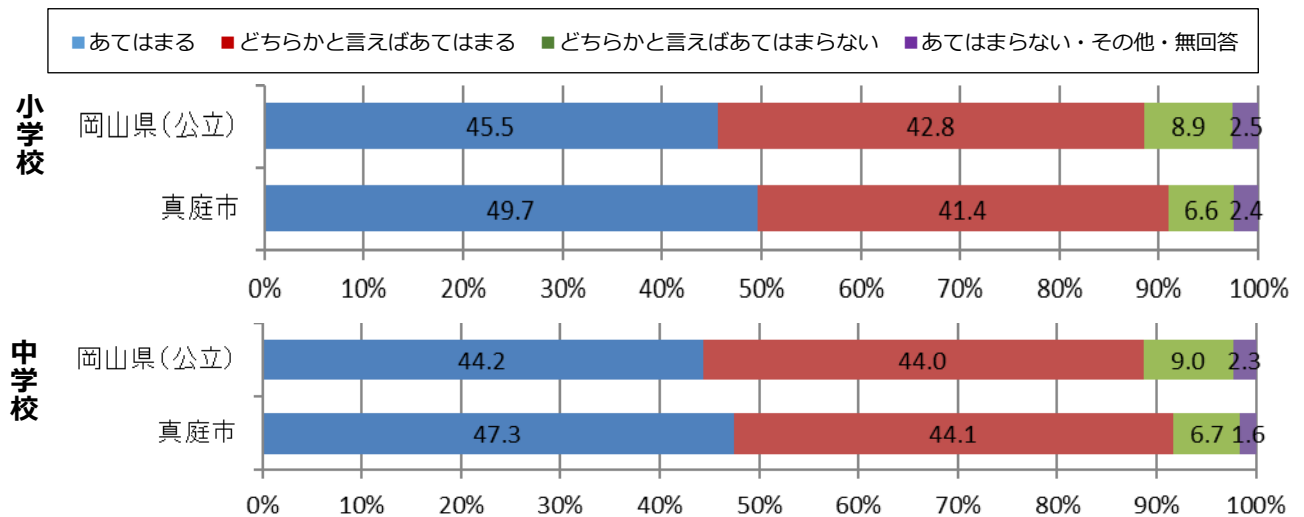


◆確かな学力を育む学習基盤

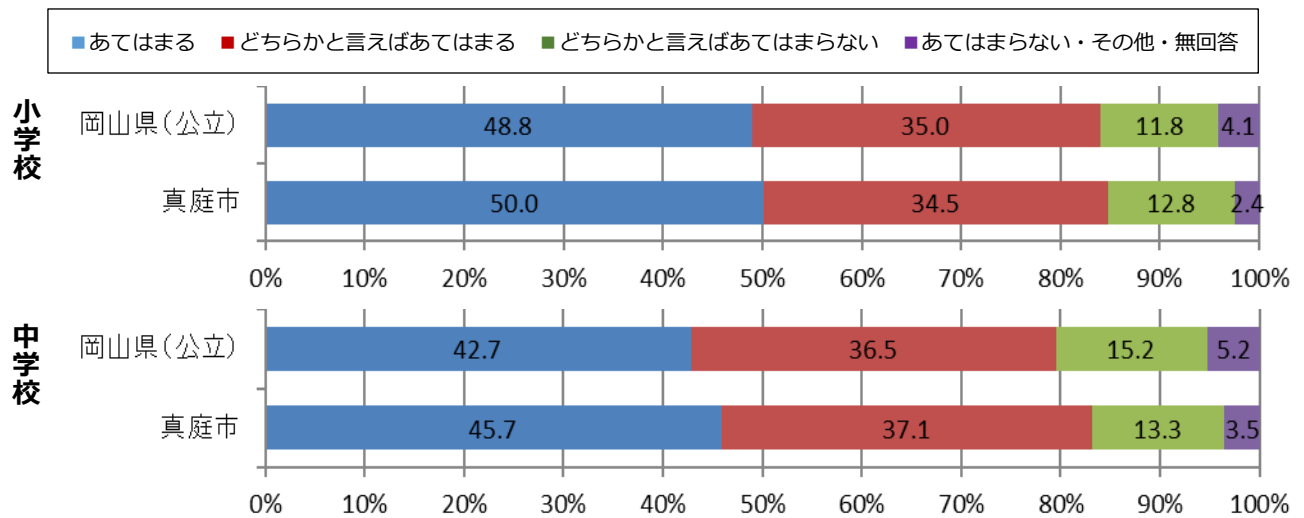
【質問項目】 学校に行くのは楽しいと思う



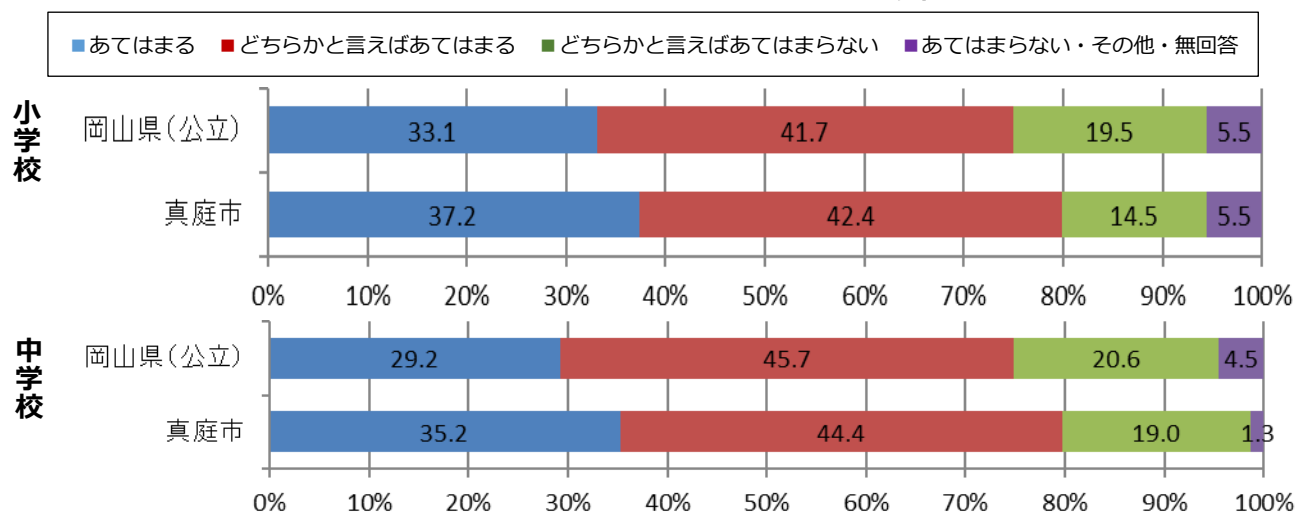
【質問項目】 国語の授業の内容はよく分かる



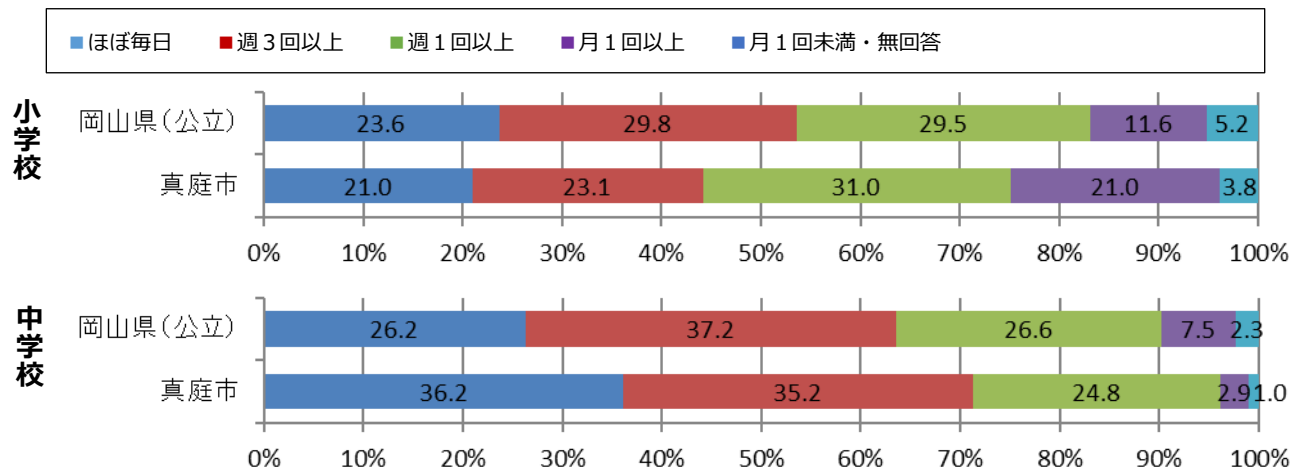
【質問項目】 算数・数学の授業の内容はよく分かる



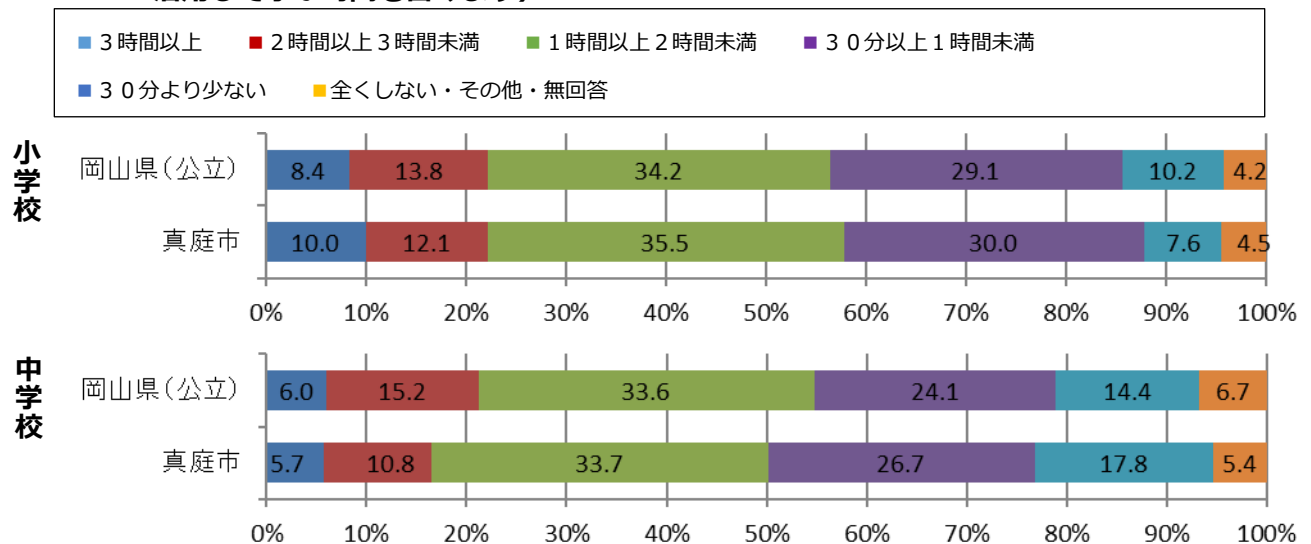
【質問項目】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う（主体性）



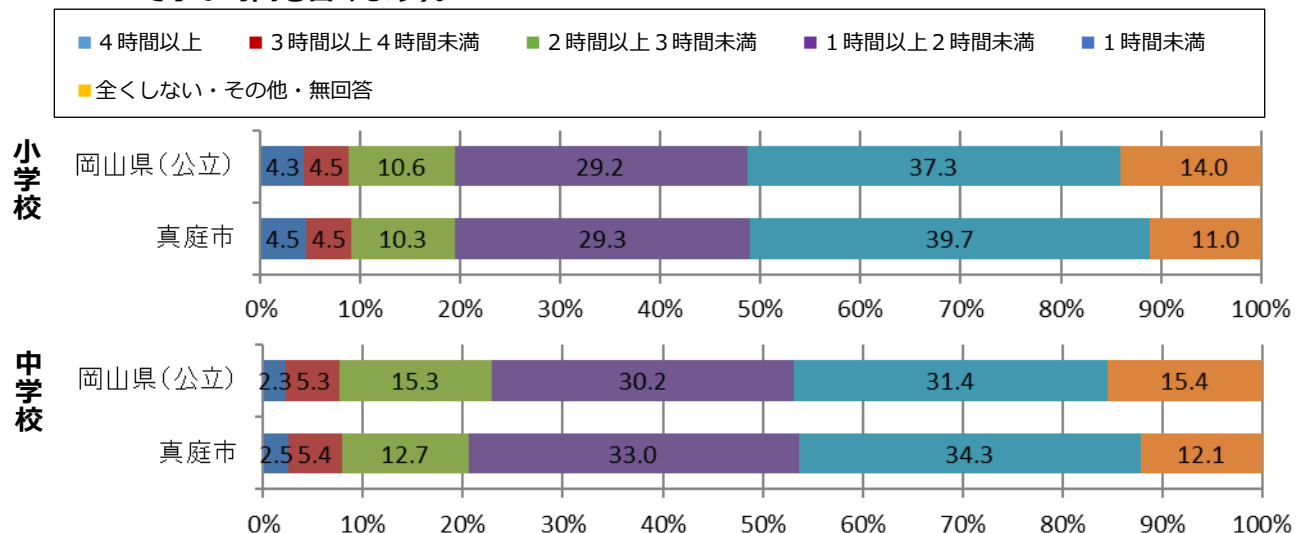
【質問項目】授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか



【質問項目】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）



【質問項目】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。



本調査の結果から、真庭市全体としては、標準をやや下回る結果となりました。また、昨年度同様「学習の確実な定着」と「学習習慣の定着」に課題があることが見えてきました。もちろん、本調査結果が、学校の教育活動すべての状態を表すものでも、児童生徒が身に付けるべき学力のすべてを反映するものでもありません。また、平均は全体の傾向であり、個々の実態や課題は見えてこないことは言うまでもありません。そのため、各校が自校の成果や課題を明らかにし、子どもの姿を思い浮かべながら指導の改善に取り組むことが重要になります。

◆市全体の改善の方向性

1 子どもたちが主体的に学ぶための授業改善

児童生徒の質問紙調査から、子どもたちに寄り添った丁寧な授業展開がなされていることが読み取れます。基礎基本の定着を目指しながら、今後は子どもたちが主体的に学習に取り組めるよう、学びを「委ねる」場面を増やしていくことが必要だと考えます。

2 1人1台端末を活用した活動の推進

情報活用能力を身に付けるとともに個別最適な学びを充実させるために、1人1台端末の活用方法についての研究を一層推進します。児童・生徒が自らの学習を振り返り、自分に必要な学びを選択できる学習環境を構築します。

3 郷育を核としたキャリア教育の推進

真庭市が取り組んでいる「郷育を核としたキャリア教育」の成果として、児童生徒の地域に対する誇りや愛着の醸成と共に、地域や社会への貢献意識が高まっています。今後はさらに地域や社会との連携を深める取組の推進をしていきます。

＜具体的な取組の内容＞

- ①調査結果をもとに個々の課題を明確にし、児童生徒に寄り添った学習指導を行い、基礎基本の定着を目指します。
- ②授業では、児童生徒に学びを委ねる場面を適切に設定し、自らの学びを自己決定、自己調整することができる力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養います。
- ③1人1台端末（Chromebook）を授業や家庭学習で効果的に活用し、個別最適な学びの実現を目指します。
- ④学習ドリル（e-ライブラリ）の活用を推奨し、個に応じた補充学習、家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指します。それに加え、各校の実態に合わせた教材の開発を行ったり、独自に学習アプリを導入したりしながら、それぞれの課題解決に努めます。

- ⑤学力向上担当や研究主任、管理職を中心として、検証・改善サイクルの仕組みを作り、学校の取組の質の向上を図ります。
- ⑥各種研修の場で、各校の取組を紹介し合ったり、よりよい方法について話し合ったりするなど、他校の職員との交流を図り、校内研修の充実を図ります。
- ⑦総合的な学習の時間を中心に地域の魅力を学んだり、課題や解決法を考えたりするような探究的な学びの機会を充実させます。また、自身の将来や職業について考えたりする活動を取り入れ、地域を活かしたキャリア教育の推進を図ります。

X おわりに

－真庭市の目指す学校教育に向けて－

真庭市が目指す教育の理念の実現と、学習指導要領が示す３本柱、「学びに向かう力、人間性等＝学んだことを人生や社会に生かそうとする意欲」、「知識及び技能＝実際の社会や生活で生きて働く力の土台」、「思考力・判断力・表現力など＝未知の状況にも対応できる力」の育成に向けた取組を推進する中心は学校です。しかし、学校や家庭だけで子どもの育ちを支えていくことはできません。そのため、学校を地域社会の拠点として、すべての人の協力体制のもと、子どもたちを社会全体で育んでいきたいと考えています。市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願いします。